

3月 園だより

恩恵幼稚園



新型コロナウイルスの感染拡大が危ぶまれています、幼稚園は当面通常通り行います。3月は、共に過ごした友だちとのかわりの中、希望に満ちた子どもたちの笑顔と声が園全体に染み渡る充実の時です。卒園式まであとわずかとなりましたが、神様の守りの中で大きくなったことを感謝して過ごしたいと思います。



年主題 ことばに満たされて～ひびきあう～

年聖句「その人は流れのほとりに植えられた木」詩編1:3

3月の主題 かけがえのない

3月の聖書の言葉

「わたしたちの主イエス・キリストの名により、父である神に感謝しなさい。」 エフェソの信徒への手紙5章20節

3月の月の願い

- ・一人ひとりが神さまに愛されているかけがえのない存在であることを感じる
- ・神さまへの感謝、希望をことばや賛美で表す
- ・アイデアを出し合い遊びを充実させ、満ち足りた思いをもつ
- ・仲間と共に見通しをもって自分たちの生活を組み立てていき、新しい生活への期待をもつ

3月の行事予定

- 2日(月) お茶(ゆり・ちゅうりっぷ組お招き)
- 4日(水) ばら組卒園写真撮影 9:30～ お楽しみ会
- 10日(火) 延長保育終了
- 17日(火) 給食休み 全員お弁当 13:30 降園
- 18日(水) 卒園式 10:00～
- 延長保育休み: 5日、11日～18日
- 19日(木) ～4月7日(火) 春休み
- 4月 8日(水) 新学期始まり・午前中保育
- 4月 9日(木) お弁当始まり
- (入園式準備の為、すみれ 12:30 ちゅうりっぷ・ゆり・ばら 13:00 降園)
- 4月 10日(金) 入園式 10:00～・午前中保育

※3月は感染拡大を避けるため、外部講師、園外保育は全て自粛させていただきます。中止の行事は、スイミングスクール、体操教室、味噌作り、卒園礼拝、絵本読み聞かせ、習字です。11日に予定していましたガラス拭きも中止します。尚、卒園式当日は、ばら組・ゆり組、ばら組保護者、職員のみで行います。たんぼぼ・すみれ・ちゅうりっぷ組のお子様は17日(火)で保育終了とさせていただきます。

お知らせとお願い

- 4日(水)はばら組の卒園写真撮影日です。お楽しみ会は、子どもと教師だけで行います。お昼はお楽しみ給食です。
- 学期末整理のため、延長保育は10日(火)で終了させていただきます。
- 今年度の資源回収も皆様のご協力により、収益金の一部で、卒園生に学校で使う引き出しを贈ることができます。ありがとうございました。

※3月の資源回収はお休みです。

- 卒園式の準備の為、17日(火)は13時半降園です。尚、17日は都合により、給食はお休みでお弁当になります。全ての荷物を持ち帰りますので全員お迎えをお願いします。
- 18日(水)は卒園式です。子ども達が体調を崩さないようお願いします。尚、たんぼぼ・すみれ・ちゅうりっぷ組は卒園式当日はお休みになります。



新型コロナウイルス感染症への対応方針について

今後、園児・職員・その家族に感染者が出た場合、直ちに休園措置を取ります。休園の期間は市の方針に従いますが、今のところ2週間程度です。

毎朝、必ず検温してから登園してください。熱が37.5度以上ある場合、咳、鼻水、倦怠感等がみられる場合は、登園を自粛していただき、自宅で療養し経過観察をお願いします。



お願い: 新年度ばら組さんは給食の配膳やクッキングをしますので、エプロン、三角巾、マスクを4月までにご用意ください。エプロンも三角巾も自分で身支度ができるように紐ではなくゴムに付け替える等ご協力をお願いします。マスクは使い捨てではなく、ガーゼマスクをご用意ください。

主 題 かけがえのない

聖書の言葉 「主に向かって心からほめ歌いなさい。
そして、いつも、あらゆることについて、わたしたちの主イエス・キリストの名により、父である神に感謝しなさい。」

エフェソの信徒への手紙 5章 19節～20節

解説：NHK・BS で「遊びの科学」という番組を見た。
「身体を使って遊ぶことは脳を鍛えることとなり、賢く、より勇敢に、優しくなることが研究で明らかになった。遊びは本能で昆虫から魚、動物まで遊びながら進化してきた」と紹介、その遊びの世界を紹介する。

子どもはディスプレイに向かう時間が長時間となり、外遊びを失った子どもの育ちの深刻さが訴えられていた。

「6000人以上の殺人犯を調査した結果、暴力的行動を抑えられない性格には幼い時代の遊びの欠如が関係していた。子ども時代の遊びは人格形成に深刻な影響を与える。楽観的気持ちや達成感や自信や自己を認識する力などは遊びを通して育まれる等、専門家の話を紹介。WHO世界保健機関によれば若者のメンタルヘルスは悪化している。例えばヨーロッパでは5人に一人が情緒や発達障害を抱え、8人に一人が精神疾患にかかっている」等が語られ、外遊びに夢中になる子どもが紹介される。木登りをしたり、飛び降りたり、ブランコに登ったり、大人の目の届かないところの子ども遊びは凄まじい。この遊びが奪われている。「子どもに遊びを処方するようすべての医師に推奨する」（アメリカ小児科学会 2018年8月）との言葉で番組が終わる。

「イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人ともに愛された」（ルカ福音書 2章 52節）

神と人（保育者、保護者）ともに愛されて、逞しく知恵に満ちて成長した年長の子どもたちを実感し感謝があふれ、神への賛美の歌が歌われる。

賛美に始まり、遊びを中心にした保育があり、そして、賛美に終わる。「神と人ともに愛されて」、子どもたちは自分を出し切って遊んできた。「脳が発達し、賢く、より勇敢に、優しくなる思いやりの心、判断する心」が育った子どもたちが眩しい。

（「キリスト教保育」誌3月号より抜粋）



◎親ができることは、無条件の愛を与えてあげること

無条件で愛されている、いつだって助けてくれるという基本的な信頼感と安心感を育てることです。

子どもが泣いたり呼び掛けたりしたら、いつも温かく応える。失敗したら頭ごなしに怒らず「大丈夫だよ」と励ます。不安そうなときには寄り添う。そんなかわりを心がけてほしいですね。その積み重ねで安心感や信頼感が根付くと、「ありのままでいいんだ」という自己肯定感が生まれ、「がんばってみよう」という前向きになるわけです。この安心感と、親に見守られてやりたいことをやる中で、非認知能力の基礎ができてきます。

◎子どもの好奇心を尊重！やりたがることをやらせよう

1歳になるころから、周りの世界に興味を持ち探索を始めます。水道の水で遊ぶなどいろいろやりますが、原則やらせてあげましょう。100%賛成しなくても「じゃあ風呂でやろう」とかやりたい気持ちを認めて、活動を保障してあげるのが大事です。本当に危険な時に真剣に叱り、普段から危ないものは物理的にさわれないようにしておけば叱らずにすみます。好奇心から始まる自発的な活動を通して、多様に学んでいるのです。親は遊んであげるものではないのです。親子で遊ぶことは良いことです。絵本を読んであげるのも良い影響があります。ただ、**子どもが自発的にやっていることは、邪魔しないのが大事です。**

◎ホメホメもガミガミも遊びの邪魔

子どものすることに「上手、すごい」とホメまくるお母さんと、「やめてよ！」とガミガミ怒るお母さんに、1時間黙っててもらいました。子どもはげげな顔をしていましたが、お母さんが黙って見てくれるとわかると、いつもとは違う遊びを生き生きとやり始めたのです。お母さんはそれぞれ「うちの子がこんなに遊べるなんて！」と驚き、今まで口をはさみすぎていたことに気づいていました。

◎おとなしい子どもにはどう対応すれば…？

頭の中では、あれはなんだろう・おもしろそう・怖そうなど考えているんです。そんなとき「見てないで行きなさい」と無理強いすると、「見ているのはよくない」という否定のメッセージを伝えることとなります。**生まれ持った気質を否定せず受け入れましょう。**ただいつも慎重な子には、「一緒に渡ってみようか」などと励まして、少し渡れるようにしてあげるのはいい。**本人が「否定されなかった」と思えることが大事です。**

◎親として持つべき心がけは？

「うちの子は何を見ているのかしら、どんなことが好きなのかしら」と関心を寄せて、理解すること。何かやっていたら、口出ししないで「ここにいるよ。あなたがそうやっている姿が好きなのよ」という気持ちで見守ってほしいですね。

（お話：汐見稔幸先生 小学館の子育てサイト「Hugkum（はぐくむ）」より抜粋）